

妻木晩田遺跡(鳥取県西伯郡大山町)

むきばんだいせき

ここは遺構展示館



弥生時代後半を中心とする400棟以上の竪穴住居跡及び500棟以上の掘立柱建物跡、30基以上の墳墓などが確認されている/仙谷地区、妻木新山地区、洞ノ原地区、妻木山地区、松尾頭地区、松尾城地区、小真石清水地区の7つの地区から構成されているが、時間の関係で洞ノ原地区を回ってみることにする



この先が洞ノ原地区



弥生時代後期後葉(2世紀後半)の復元住居が見えてくる



これは洞ノ原8号竪穴住居



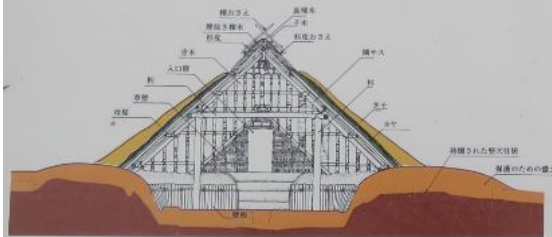
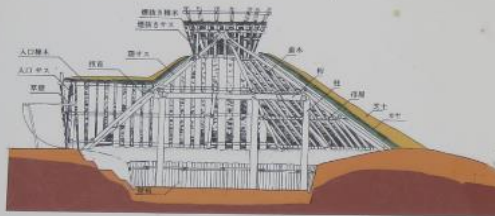


とうのほら たてあなしゅうきよ
洞ノ原8号竪穴住居

この住居は、妻木晩田遺跡最盛期に造られた典型的な竪穴住居です。発掘前の地表に竪穴の痕跡が残っているほど保存状態がよく、竪穴周囲の土盛（周堤しゅうてい）も残っていました。周堤も含めた住居全体の大きさは、径13mにもなります。

竪穴は隅の丸い五角形で、4本柱から5本柱に一度建て替えが行われています。北東側には入口と思われる階段状の掘り込みもみられました。

—土屋根の竪穴住居—



土屋根竪穴住居復元図

床面の中央には穴があり、入口から向かって右側には、長さ2.42m、幅66cm、高さ8cmの高まりがみられました。柱穴のひとつからは壺つぼが発見されています。

ここでは建て替え後の5本柱の竪穴住居の姿を再現しています。復元にあたっては、妻木山地区でみつかった焼失住居を参考に、草葺きの上に土をのせる土屋根に復元しました。

時期：弥生時代後期後葉（約1,800年前）

大きさ：竪穴の最大径約 7m、深さ 1m

床面積約24m²

これは洞ノ原3号掘立柱住居





どうのほら 洞ノ原3号

この建物は東西方向に3本、南北方向に2本、併せて6本の柱を地面に埋め立てた長方形の建物です。妻木晩田遺跡で発見されている掘立柱建物の多くが、同じ規模・平面形をしています。これらの建物が列をなして並ぶことから高床の倉庫と推定されます。

ここでは柱位置を表現しています。

大きさ・長辺 3.9m、短辺 2.9m
面積 約11m²

ほったてばしらたてもの 掘立柱建物



これは洞ノ原4号掘立柱住居





とうのはら 洞ノ原4号

妻木晩田遺跡の最盛期に造られた竪穴住居です。竪穴の掘り込みは隅の丸い正方形で、4本の柱で屋根を支えていました。床面には火を焚いた痕がみられます。中央の穴からは煮炊きに用いた甕の破片が発見されました。

ここでは建物の復元は行わず、竪穴周囲の土盛、柱の位置を表現しています。

時期：弥生時代後期後葉（約1,800年前）

規模：長辺 6.0m、短辺 5.3m、深さ 58cm

床面積約 19㎡

竪穴住居



これは洞ノ原2号竖穴住居





どうの はら
洞ノ原2号

たてあなじゅうきょ
竪穴住居



妻木晩田遺跡の最盛期に造られた竪穴住居です。竪穴の掘り込みは隅の丸い正方形で、4本の柱で屋根が支えられていました。床面中央の穴に向かって排水のための溝が3本のびています。床面からは高坏たかづきの破片が発見されました。

ここでは住居の骨組み（木組み）だけを復元しています。

時期：弥生時代後期後葉（約1,800年前）

大きさ：一辺 5.2m 深さ 37cm

床面積約 19m²



別の角度から



これは洞ノ原10号掘立柱住居





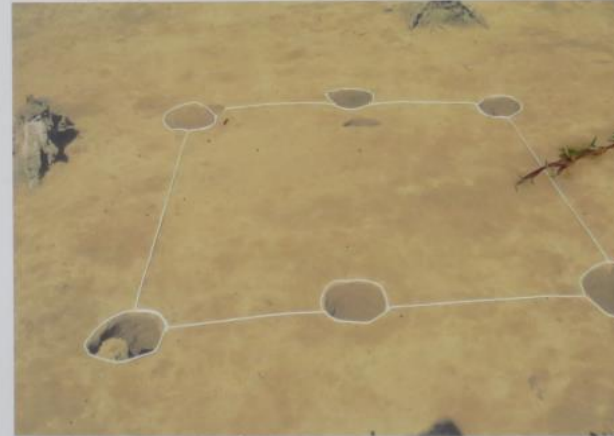
どうの 原
洞ノ原10号

この建物は、東西方向に2本、南北方向に3本、併せて6本の柱が不揃いに並ぶほぼ正方形の建物です。倉庫と推定される建物とは柱配置が異なることと、墳丘墓群に向かって建てられていることから、先祖の墓を祀るための建物ではないかと推定されます。

ここでは棟持柱を持つ高床建物として復元しています。

大きさ：長辺 2.9m、短辺2.8m
面積約8m²

ほったてばしらたてもの
掘立柱建物



さて、正面は洞ノ原墳墓群





どうの はら ふん ぼ ぐん 洞ノ原墳墓群

洞ノ原地区には1世紀中頃から2世紀前半にかけて、25基のお墓がつくられました。このうちの11基は、その形状から「四隅突出型墳丘墓」と呼ばれる山陰地方の有力者が好んでつくったお墓です。また、大きなお墓の周りに1辺1~2mの小さなお墓がいくつもあります。大きなお墓に眠る有力者の子どものお墓でしょうか。

このほか、妻木晩田遺跡には仙谷地区、松尾頭地区に墳墓群がありますが、この洞ノ原墳墓群はこれらのうち最も古いものです。ここには「妻木晩田のムラ」を築いた人たちが眠っているのかもしれません。



妻木晩田遺跡の墳墓群

松尾城地区

松尾頭地区

洞ノ原地区

妻木山地区

仙谷地区

妻木新山地区

松尾池

展示室

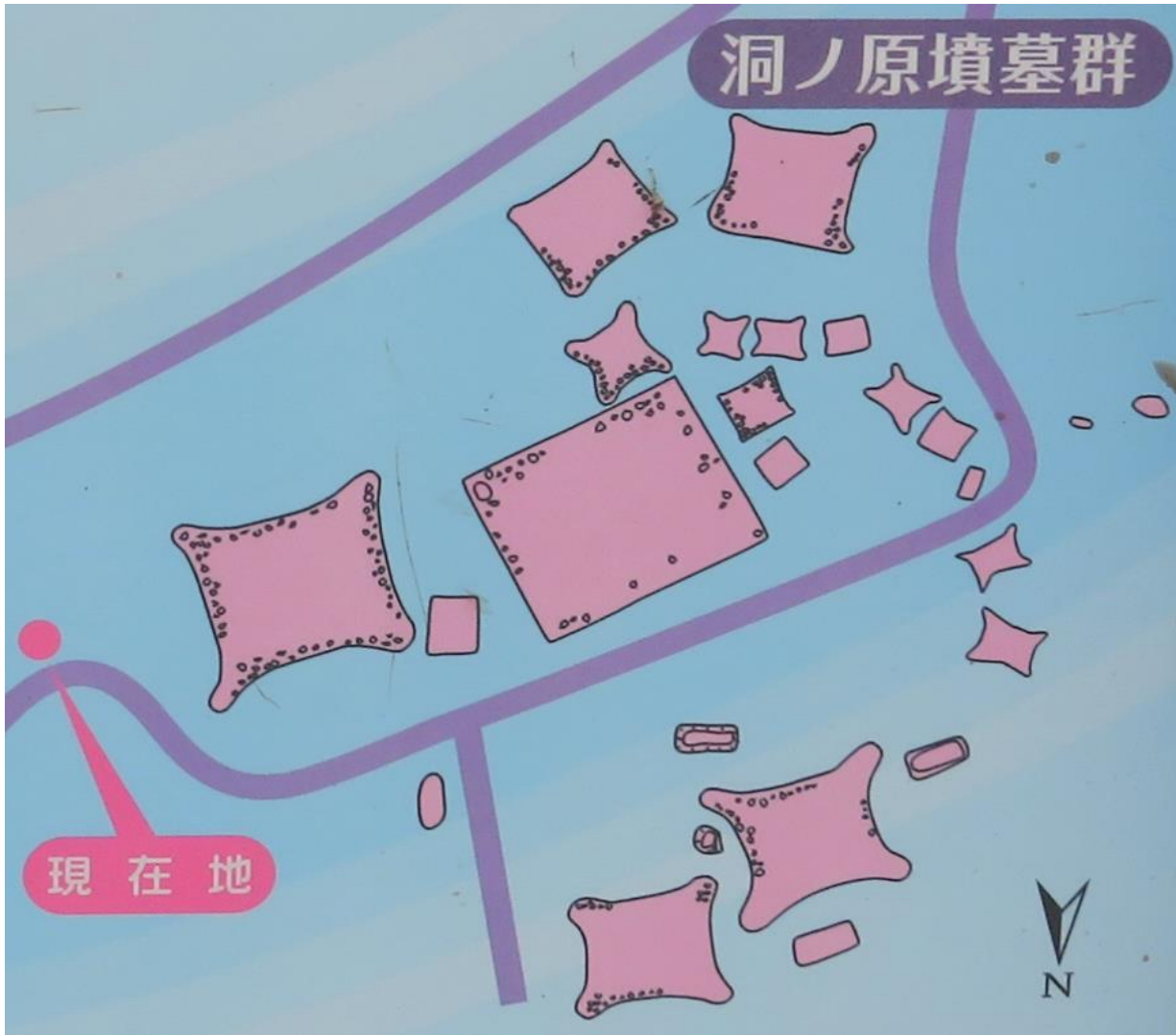
松尾頭墳墓群

洞ノ原墳墓群
(現在地)

仙谷墳墓群



洞ノ原墳墓群



現在地



これが洞ノ原1号墓/四隅突出型墳丘墓



右手の突出部から見たところ



突出部をアップで見たところ



洞ノ原

1号墓

むきばんだ遺跡で最初に造られた四隅突出型墳丘墓です。墳丘の裾及び斜面には、ていねいに石を貼りつけています。北側の突出部がやや長く、踏石を並べて墓道として使われたと考えられます。墳丘上には壺・甕・高坏等の土器が供えられているのが発掘されました。

時期：弥生時代後期初頭（約2,000年前）

規模：長辺 6.5m、短辺 5.4m、高さ 0.4m、
突出部を含めた長辺は8.9m。



これは洞ノ原15号墓



とうのはら
洞ノ原15号墓

— 小型墳丘墓 —



これは洞ノ原2号墓



洞ノ原 2号墓

1号墓より早く、むきばんだ遺跡で最初に造られた方形墳丘墓です。墳丘の裾には大きめの石を立て並べています。斜面には石を貼りつけ、東隅には大きな石が置かれていました。墳丘上には、壺・甕・脚付鉢等の土器が供えられているのが発掘されました。

時期：弥生時代中期末～後期初頭

規模：長辺 8.4m、短辺 6.9m、高さ 0.5m



別の角度から



これは洞ノ原14号墓



洞ノ原14号墓

— 小型方形墳丘墓 —



これは洞ノ原16号墓



どうのほら
洞ノ原16号墓

— 小型墳丘墓 —



これは洞ノ原11号墓



洞ノ原 11号墓

むきばんだ遺跡に特徴的な小さな四隅突出型墳丘墓です。こうした小型墳丘墓は、大きな墳丘墓の周りを円を描くように並んでおり、子供の墓ではないかと考えられています。11号墓は貼ってある石がよく残っており、四隅が突出しているのがわかります。

時期：弥生時代後期

規模：長辺 1.55m、短辺 1.25m、高さ 0.2m、
突出部を含めた長辺は2.15m。



これは洞ノ原17号墓



どろのほら 洞ノ原 17号墓

— 小型墳丘墓 —



これは洞ノ原13号墓/四隅突出型墳丘墓



洞ノ原13号墓

— 小型四隅突出型墳丘墓 —



これは洞ノ原12号墓/四隅突出型墳丘墓



どうの 原12号墓

— 小型四隅突出型墳丘墓 —



これは洞ノ原5号墓/四隅突出型墳丘墓



とうのはら
洞ノ原5号墓

—小型四隅突出型墳丘墓—



これは洞ノ原4号墓/四隅突出型墳丘墓



どうの はら
洞ノ原4号墓

— 四隅突出型墳丘墓 —



これは洞ノ原6号墓



とうのはら
洞ノ原6号墓

— 小型方形墳丘墓 —



これは洞ノ原3号墓/四隅突出型墳丘墓



どうの 原3号墓

— 四隅突出型墳丘墓 —



右手の突出部から見たところ



突出部をアップで見たところ



これは洞ノ原23号墓



これは洞ノ原9号墓/四隅突出型墳丘墓



どうの 原9号墓

— 小型四隅突出型墳丘墓 —



これは洞ノ原10号墓/四隅突出型墳丘墓



どうのほら
洞ノ原10号墓

— 小型四隅突出型墳丘墓 —



これは洞ノ原21号墓



これは洞ノ原8号墓/四隅突出型墳丘墓



斜面に石を貼りつけた四隅突出型墳丘墓です。お墓のまわりからは、死者をまつる儀式に使われた壺や甕などの土器が出土しました。

時期：弥生時代後期前半（約1,900年前）
規模：長辺4.9m、短辺4.4m、高さ26cm
突出部を含めた長辺は約6.5m。



どうの はら
洞ノ原8号墓

これは洞ノ原20号墓



これは洞ノ原18号墓



これは洞ノ原7号墓/四隅突出型墳丘墓



斜面に石を貼りつけた四隅突出型墳丘墓です。墓道と考えられている突出部には、踏み石とみられる大きめの石を並べています。

時期：弥生時代後期前半（約1,900年前）
規模：長辺4.4m、短辺4.0m、高さ27cm
突出部を含めた長辺は約5.3m。



洞ノ原7号墓

これは洞ノ原25号墓



洞ノ原地区西側丘陵から弓ヶ浜、島根半島を見たところ [\(クリックしてビデオを見る\)](#)





洞ノ原地区西側丘陵ご案内



洞ノ原地区西側丘陵は、香木磯田遺跡が最盛期を迎える2世紀以降、竪穴住居がつけられ、人びとの生活の場となっています。現在、竪穴住居と倉庫を2棟ずつ復元しています。背景には豊かな平野と穏やかな美保湾が広がり、弓ヶ浜、熊根半島を望むことができます。向かいにある香取山の麓から東に長く延びる淀江の町並みは、かつての砂州に沿っており、弥生時代にはその南側が湖沼となっていました。「山麓に依りて国邑を築す」と中国の史書に記された、弥生時代の集落景観を彷彿とさせる情景です。

鳥取県教育委員会

洞ノ原地区西側丘陵ご案内



洞ノ原地区西側丘陵は、妻木晩田遺跡が最盛期を迎える2世紀以降、竪穴住居が作られ、人びとの生活の場となっていきます。現在、竪穴住居と倉庫を2棟ずつ復元しています。背景には豊かな平野と穏やかな美保湾が広がり、弓ヶ浜、島根半島を望むことができます。向かいにある壺瓶山つぼがねやまの麓から東に長く延びる淀江の町並みは、かつての砂州に沿っており、弥生時代にはその南側が湖沼となっていました。

「山島さんとうに依りて国邑よこくを為す」と中国の史書に記された、弥生時代の集落景観を彷彿とさせる情景です。

鳥取県教育委員会

さて、遺構展示館を見てみよう



遺構の展示の様子

[\(クリックしてビデオを見る\)](#)



弥生のネットワーク —妻木晩田の交易活動—

Yayoi period networks -Trade at Mukibanda- / 弥生时代的交易网络 -妻木晩田的交易活动 - / 아요이의 네트워크 - 무키반다의 교역활동 -

日本海を東西に結ぶ交易では、潟湖という天然の港が重要でした。潟湖に面した青谷上寺地遺跡のような場所は寄港地として重要な役割を果たし、妻木晩田遺跡のような潟湖を見下ろす山上の集落は居住の本拠地であり、これらが一体となって交易活動を行っていました。また鏡や鉄器などの貴重な物資の入手は、各集落の首長によるネットワークを通じて行われていました。



にほんかいえんがんにひろがるてっき 日本海沿岸に広がる鉄器

Distribution of ironware along the Japan Sea coast / 普及日本海沿岸的鉄器 / 동해연안으로 퍼져 나간 철기

日本海沿岸地域には、鉄器が多く出土する遺跡が多数あります。なかでも妻木晩田遺跡からは、小型の工具(ヤリガンナ、穿孔具、袋状鉄斧など)を中心に300点以上の鉄器が出土し、1つの遺跡から出土する点数としては、国内屈指の点数です。朝鮮半島から直接もたらされたと考えられるタビや北部九州製と考えられる鉄斧などがあり、これらの地域と交流があったことがわかります。



妻木晩田遺跡の鍛冶

Iron smithing at the Mukibanda site / 妻木晩田遺址的打鉄 / 무키반다 유적의 철기 생산

鉄器と共に鍛冶の技術や知識も北部九州から伝わりました。鍛冶を行ったと考えられている竪穴住居の床面には、赤く焼けた炉の跡が見つっています。錆がついたり、被熱により赤くなった金床石や敲石、板状の鉄器素材や鑿で切断された鉄器片などが出土しています。



石器をとおした交流

Exchange of stone implements / 从石器来看的当时交流 / 석기를 통해 본 교류

妻木晩田遺跡には、緑色凝灰岩や碧玉を使った玉製品以外にも交流を示す石の道具があります。鋳の材料には、島根県隠岐諸島(島後)の黒曜石や香川県金山のサヌカイト(安山岩)が使われています。また、漁につかう錘は、北部九州のものに形態が似ており、同じような漁の方法が伝わったと考えられます。



むきばん だ い せき ぎよく たま 妻木晩田遺跡の玉と玉づくり

Beads and bead-making at the Mukibanda site / 妻木晩田遺跡的玉与琢玉工艺 / 무키반다 유적의 옥과 옥 만들기

妻木晩田遺跡では、青色や紺色のガラス製の小玉や管玉が出土しています。ガラス玉は、北部九州や北近畿から多く出土しており、これらの地域との交易によりもたらされたのでしょう。また、山陰から北陸には、緑色凝灰岩や碧玉、水晶などの石材で玉づくりを行った集落が多くあります。玉類は、交易品として重要な特産品だったと考えられています。



こう りゅう 交流^{かた}を語る^ど土器^き

Exchange of pottery / 陶器告诉我们的当时交流 / 교류를 말해 주는 토기

妻木晩田遺跡から出土した土器の中には、北近畿、因幡、東伯耆、備後、西部瀬戸内あたりの特徴をもった土器があります。また、妻木晩田遺跡のある伯耆の土器が、因幡で出土する例もあります。土器そのものが交易品の場合や、土器の内容物が交易品の場合、土器を使った儀礼が目的の場合などが考えられています。



やよい たてもの ふくげん
弥生の建物を復元する

Restoring a Yayoi period building
 复原弥生时代的建筑物
 아요이시대의 건물을 복원



素材の検討

遺跡から見つかった部材や土器に描かれた建物などから得られた情報により、建物の形や仕組みを考えます。



新石器時代の土器に描かれた建物



弥生時代の土器に描かれた建物



弥生時代の土器に描かれた建物



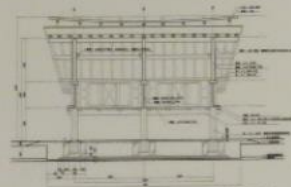
弥生時代の土器に描かれた建物

**模型をつくる
 設計図を描く**

模型をつくりながら、建物の構造をいろいろと検討します。構造が決まったら、模型をもとに設計図を描きます。



復元建物の模型



復元建物の設計図

復元作業

実際の復元作業では、どの工程にも伝統的な木造建築の技術がふんだんに使われています。



1

部材加工

山から切り出した木材は、加工され手斧という道具で木肌を美しく磨きます。



2

組み上げ

曲がりのある自然木をうまく組み合わせながら仕上げます。



3

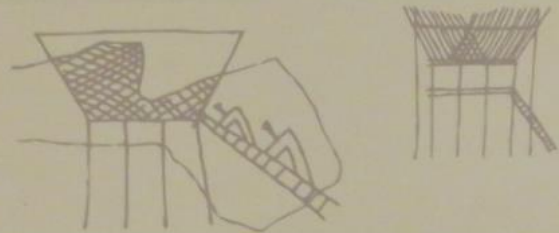
屋根葺き

屋根の上に茅(スキヤコシ)を葺きます。



4

完成



せきこ 潟湖でつながるムラとムラ

Villages linked with lagoons / 以泻湖连结起来的村落 / 석호로 이어져 있는 마을과 마을

潟湖は、砂州などが湾口に発達することにより、外海と隔てられてできた浅い湖です。波が穏やかで船を係留しやすいことから、日本海を東西に結ぶ港として最適な場所でした。交流の証として、作り方やデザインが同じ鉄器や漁具、玉製品、木製品などが日本海沿岸の遺跡から出土しています。また、潟湖に注ぐ河川をさかのぼれば内陸のムラとの交流もできます。サヌカイト(安山岩)や分銅型土製品といった象徴具は、中国山地を越えて流通した代表的なものです。



こう りゅう 交流^{かた}を語る^{まつ}祀り

Exchange of ritual practices and materials / 祭祀告诉我们的当时交流 / 교류를 말해 주는 제사 형태

日本海沿岸地域には、四隅突出型墳丘墓という特徴的な形をしたお墓があります。共通する形のお墓に首長を葬り、祀るという葬送儀礼によって、地域社会がつながっていたと考えられています。



にほんかいえんがん ひろよ すみ とつしゅつ がた ふんきゅう ぼ
日本海沿岸に広がる四隅突出型墳丘墓



むきほんだ せんたに どうのほら
妻木晩田(仙谷・洞ノ原)

ちゅうせんじ
仲仙寺
 みややま
宮山
 あおき
青木

あんようじ
安養寺

あみだいじ
阿弥大寺
 みやうち
宮内

いとたに
糸谷

にしだに しおつやま
西谷 塩津山

にしかつらみ
西桂見

おだかあざやま
尾高浅山

とのやま
殿山

やだに
矢谷

すぎたに
杉谷

づか
塚

こはねやま
小羽山

- 不明
- 19m以下
- 20~39m以下
- 40m以上



参考ホームページ

<https://www.city.yonago.lg.jp/17216.htm>

<http://inoues.net/ruins/mukibanda.html>

<https://style.nikkei.com/article/DGXMZO05191900T20C16A7000000/>

<https://bunka.nii.ac.jp/heritages/detail/218159>

